

無償資金協力「経済社会開発計画」救急車供与式片山大使挨拶

【2022年7月21日（木）9:00～、於：大統領府】

おはようございます。

まず、無償資金協力プログラム「経済社会開発計画」の枠組により本日、30台の救急車の引渡し式典がカステイジョ大統領、パレデス大統領夫人、ランダ外務大臣、ロペス保健大臣及びボルアルテ副大統領兼開発社会包摂大臣臨席の下、大統領府において開催されるに際し、日本政府を代表して一言御挨拶申し上げます。

日本政府はこれまでペルーに対して、過去50年余りに亘り累計約50億米ドルの経済協力を実施して参りました。これは中南米各国の中で最大の援助額です。

2020年に日本政府は、ペルー政府の要請に基づき、国内の医療・保健体制強化のために約830万米ドルの無償資金協力プログラム供与を決定しました。本日ここに並べられた新車の救急車30台は、本プログラムにより保健省を介して寄贈される95台の一部を構成し、全国各地の病院に配備されます。これら車両が有効に活用され、新型コロナウイルス感染症対策を含む医療分野で役立つことを願っています。

新型コロナウイルス対策は、国際社会全体が一致して取り組むべき課題です。日本はこれまでにペルーに対しても個人用防護具の寄贈など様々な支援を行い、その規模は世界有数です。パンデミックの完全な終結に向けて、ペルーと共に引き続き積極的に取り組んでいく考えです。

来年は日ペルー外交関係樹立150周年の節目にあたります。2024年はペルーAPEC開催の年であり、同時に、日系人移住125周年です。そして2025年は大阪・関西万博が日本で開かれます。日ペルー戦略パートナーシップを更に発展させる絶好の機会である今後数年間、保健分野を含め様々な分野で、両国関係がますます強化されることを祈念しまして私の挨拶といたします。

ありがとうございました。